

(別紙)

## 人を対象とする医学系研究に関する情報公開

福島県立医科大学脳神経外科学講座では、本学倫理委員会の承認を得て、下記の人を対象とする医学系研究を実施します。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成 29 年 7 月 福島県立医科大学医学部脳神経外科学講座 教授 齋藤清

【研究課題名】脳脊髄液中バイオマーカーによる脳血管障害後水頭症の発症予測に関する検討

【研究期間】 平成 29 年 8 月 ～ 平成 32 年 7 月 (3 年間)

【研究の意義・目的】 脳血管障害は日常生活を送る上で体の動きが不自由となる主な原因疾患です。そのうち、出血性脳血管障害に含まれるくも膜下出血は死亡率が高く、後遺障害を残すことも少なくありません。脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血の主な合併症として、発症後 3 日以内におこる脳動脈瘤再破裂や、発症後 4 日～14 日以内におこる脳血管攣縮、1-2 か月後(慢性期)の正常圧水頭症があげられます。一般に、脳血管攣縮は 23-63%に、正常圧水頭症は約 8-20%に発症するといわれています (Kwon OY et al: J Korean Neurosurg Soc 2008, Hakim S et al: J Neurol Sci. 1965, 杉山ら: 脳卒中データバンク 2005)。出血性脳血管障害による重度後遺症であると多額な医療費や介護費が費やされることとなります。いったん退院しても慢性期の正常圧水頭症に対する手術治療が必要になることもあります。

脳脊髄液の生理学については、近年新たな知見の報告が相次いでいます。慢性期の正常圧水頭症については、シャント手術を行うことにより、多くは神経症状の改善が期待されます。しかし、この水頭症発症機序については不明点も多く、今後の研究発展が治療介入に役立つ分野といえます (Klarica M: Neuroscience. 2013, 宮嶋: 脳神経外科. 2014)。

くも膜下出血の発症早期に転帰を予測しうるような指標があれば、本人や介護を行う家族、医療者側にとって見通しを持って治療方針を決定しやすくなります。本研究は髄液検体を用いて、発症早期から病状を反映しているマーカーがあるかどうかを検討することが目的です。

【研究の方法】

2009 年 1 月以降の脳血管障害 (くも膜下出血、脳内出血、脳室内出血など) を有する症例を選定して検討します。

【研究組織、研究機関名】

研究責任者	(所属) 脳神経外科学講座 (職) 主任教授 (氏名) 齋藤清
主任研究者	(所属) 脳神経外科学講座 (職) 主任教授 (氏名) 齋藤清
研究分担者	(所属) 脳神経外科学講座 (職) 教授 (氏名) 佐久間潤
研究分担者	(所属) 脳神経外科学講座 (職) 准教授 (氏名) 藤井正純
研究分担者	(所属) 脳神経外科学講座 (職) 講師 (氏名) 佐藤拓
研究分担者	(所属) 脳神経外科学講座 (職) 講師 (氏名) 市川優寛
研究分担者	(所属) 脳神経外科学講座 (職) 病院助手 (氏名) 村上友太
研究分担者	(所属) 脳神経外科学講座 (職) 専攻医 (氏名) 山ノ井優

【人体から採取された試料等の利用について】

福島県立医科大学付属病院電子カルテを参照する予定です。

【他の機関等への試料等の提供について】

現時点で他の機関等への試料等の提供予定はありません。

【研究者が保有する個人情報について】

研究者が保有する個人情報に関し、研究対象者ご本人又は代理人の方が開示、訂正、利用停止及び第三者への提供の停止等の請求を行う場合、「福島県個人情報保護条例」に基づく手続きが必要となります。なお、開示等を行う場合、請求者には文書等の交付に係る費用（コピー代等）をご負担いただきます。

【本研究に関する問合せ先】

○研究内容に関する問合せの窓口

〒960-1295 福島県福島市光が丘1

公立大学法人福島県立医科大学医学部脳神経外科学講座 担当 齋藤清

電話:024-547-1268 FAX: 024-548-1803

E-mail: kiyoshis@fmu.ac.jp

○個人情報に関する窓口

〒960-1295 福島県福島市光が丘1

公立大学法人福島県立医科大学 総務課 大学管理係

電話:024-547-1007 FAX :024-547-1995

○その他ご意見の窓口

〒960-1295 福島県福島市光が丘1

公立大学法人福島県立医科大学 医療研究推進課 研究推進係

電話:024-547-1825 FAX: 024-581-5163

E-mail:rs@fmu.ac.jp